

# 「単科の看護専門学校も、多職種学生と共に学ぶ機会を持てる！」

カテゴリー：④連携（多職種）

## 砂川市立病院附属看護専門学校

北海道砂川市西4条北1丁目1番5号

3年課程 1学年定員数：35名 修業年限：3年



### 背景

2022年度看護基礎教育カリキュラム改正での多職種連携強化を受け、2021年度より他校との多職種連携教育の取り組みを始めた。コロナ禍であったが、本校の強みである、ICT技術を活用しweb会議システム・クラウドを使用した授業を実施。

### 経過「約90km離れた医療分野の専門学校と繋がる！」 連携先 A校と

手探りで実施した多職種連携教育だったが、学生の「専門職になる」刺激やモチベーションの向上となった。

年度	科目	対象学生	内容	方法
'21	小児看護学 方法論II	本校2年生31名 A校救急救命学科 3年生約80名	「アナフィラキシーショックの小児と家族の対応」病院搬送前の救急救命士の対応、病院到着後の看護師の対応を相互の立場からプレゼン	一部対面、web会議システム併用のハイブリッド形式
	成人看護学 概論	本校1年生30名 A校救急救命学科 3年生約80名	職種紹介を互いにプレゼン	完全オンライン web会議システム
'22	総合医療論	本校3年生31名 A校救急救命学科 3年生約80名 臨床検査学科 3年生約40名	「小児の熱性痙攣の重症発作」事例は第2段階まで用意、授業冒頭に第1段階提示しグループディスカッション、割り込みで第2段階を提示しグループディスカッション、まとめ発表	完全オンライン web会議システム、クラウド型学習管理システムを使用

2022年度はステップアップし、A校臨床検査学科の学生さんも加わり、チーム形成を意識した多職種教育を目指した。

各グループは3科で編成した。

本校学生には、当日までの2回の授業で「共に学習する専門職調べ」「多職種連携で求められる能力」の講義を実施。

グルーピングや事前学習、オリエンテーション、グループディスカッション時のワークシートは全てクラウド型学習管理システムでA校と共有。

途中、リモートトラブルがあったが、**3科の学生が協力して困難を乗り越える姿**が印象的だった。**各職種に尊敬の念を抱き、特に直接的に接する機会が少ない臨床検査技師の多面的思考を知れた事が貴重な時間となった。**本校の学生は本授業での**職種間の調整・橋渡し役を主体的に担っていた。**

### 本校の多職種連携教育の意義

1. 地域住民の健康の担い手として活躍できる質の高い看護職者の育成を目指す（教育理念の実現）
2. 対象を取り巻く切れ目のないケアを実践するために、多職種と協働する基礎的能力や、多様な価値観をもつ他者を尊重した共感的態度をもとにした関係の発展（教育目標の達成）
3. 看護職を含んだ多職種と、共通のゴールに向かうために協力するチームと認識し、チーム成員がお互いを理解し好意的に捉えられることを目指した教育の実現



“**教員同士も連携が必要である**”  
組織間での授業計画と運用を目指す

学生達の学びを成功させる秘訣は、相手校の教員との計画的、綿密な連携であることを、実施を通して教員も学んだ。

2022年度の実施後、相手校と授業の振り返りの会をオンラインで開催した。オンラインで学び合うのは学生間の意見の本意が伝わりにくい時があること、リモートならではのトラブルがディスカッションの障害となることから、できるだけ対面での実施が良いことが挙がった。事例は臨床推論の意見交換となっていたこと、多様なニーズを満たすために互いの学校の教員の持ち回りで企画できると良いなど、実施から見えた課題と今後の方向性を確認し合えた。

2023年度は新たにA校の系列リハビリ専門学校と、新カリキュラム地域・在宅看護論内で計画している。

- ・職種紹介で相手の職種の理解ができ、改めて看護職の専門性を意識できました（1年生）
- ・同じ対象でも職種の役割で見方が違う事、共通の情報共有事項を見出せました（2年生）
- ・学生という近い立場で意見交換するのが新鮮、多職種連携の際に看護師がすべき事を再確認できました（3年生）

テーマ： チームで取り組む！プロジェクトスタディ「看護の知ったク！納得！ 感染対策イロハ歌」

カテゴリー： ③教育方法

■学校概要

学校名 横浜市病院協会看護専門学校 3年課程 | 学年定員:80名 修業年限3年  
所在地 神奈川県横浜市港南区港南台3-3-1

■内容 ・1学年前期(4月~6月)の基礎看護学の授業の中で「感染予防の技術」の基礎について学習する。  
・感染予防の技術に必要な基礎的知識の定着や感染対策行動への継続を目的として 以下のプロジェクト学習を展開した。

■目標 ・看護師に必要な感染防止に関する知識・スキルについて、7つのカテゴリーで「いろは歌」を創造する  
・「いろは歌」のコンセプトに沿って表現することに努める。  
・チーム間で看護師に必要な感染防止に関する知識や行動、さらに継続実施についての意見交換・考察をする

<p>チームで取り組む！ 看護の知ったク！納得！ 感染対策 イロハうた</p> <p style="text-align: center;"><b>感染対策 7つのカテゴリー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①手指衛生(タイミング、方法、留意点など)</li> <li>②PPE(個人防護具 方法 留意点など)</li> <li>③清潔・不潔の区別、滅菌物の取り扱い</li> <li>④感染性廃棄物、バイオハザードマーク・針刺し切傷防止策</li> <li>⑤洗浄・消毒・滅菌のキホン、スポルディング分類</li> <li>⑥院内感染の対策(ICT、ICN、院内感染の原因・対策など)</li> <li>⑦個人の免疫力の強化、健康の自己管理に関することなど</li> </ol> <p style="text-align: right;">イロハニホヘト 順序は問わない</p>	<p>チームで取り組む！ 看護の知ったク！納得！ 感染対策 イロハうた</p> <p style="text-align: center;"><b>「いろは歌」のコンセプト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>い イイね!と、心に響き、記憶の残るコトバを標語に◎</li> <li>ろ ろうかに貼ると効果的かも。思わず目に留まるイラストを!</li> <li>は ハっ!として、やってみたくなる そんな仕掛けがあるもヨシ!</li> <li>に にんまり◎思わずながめてしまう 個性豊かなポスターに!</li> <li>ほ ほ~!と感心したり、考えたり、ナゾ解きでも良いですね。</li> <li>へ へ~!知らなかった!でも知って得した!と思ってもらえる!</li> <li>と とっておきの写真? 学生らしく、学校らしく! 白衣姿でも◎</li> </ul>
---	--

【プロジェクト学習の進め方】

- ① 1チーム4~5名「いろはにほへと」ではじまる感染対策の標語とイラストを考え、「かるた札」をA4サイズのポスターにする。
- ② 作成したポスターを凝縮させ、標語やイラストなど自由にレイアウトしたものをA3サイズで作成する
- ③ ポスターセッションを行う。よくできていると感じたイロハ歌ポスターに付箋を使用しコメントし合う
- ④ 「感染対策について適切かつ継続して行うためにできること」についてチームで意見交換し、全体で考察を深める。
- ⑤ チームでの考察をふまえ、個人で「わたしの感染対策宣言 5つ」を記述する。最後に、注目をあびた作品を発表する。



【 教員の感想 】 学生より、「7つのカテゴリーでイロハ歌を創造する中で、授業の内容を復習することができた」との声があり、またチームで協力しながら学生の発想力・創造力・発信力を知る機会にもなりました。この時、1学年は初めての臨地実習へ行く直前のタイミングであり、看護学生としての感染対策の知識と技術を身に付けて 実習へ臨む動機づけにもなりました。

【 担当:基礎看護学 専任教員 国井富詠 】

# テーマ「授業参観をしてみよう」

カテゴリー：⑤その他（人材育成）

学校名：東海アクシス看護専門学校  
 住所：静岡県袋井市上田町 267 番地の 30  
 課程名：3 年課程  
 1 学年定員：60 人  
 修業年限：3 年



※当校は静岡県磐田市・掛川市・袋井市・御前崎市・菊川市・森町の

5 市1町が共同して中東遠地域の看護師充足を目指して設立された**公立**の看護専門学校です！

★令和4年度から新カリキュラムが始まるよ★

カリキュラム評価のひとつの研究授業をしよう！⇒令和3年度カリキュラム評価係によりガイドライン作成



(研究授業のイメージ)

研究授業って緊張する。  
 何か言われたら嫌だな。  
 研究授業って言われても準備が

(新カリキュラムへの不安)

新カリの授業どうやってやろう  
 ICTを活用したいけど  
 ティフロマを意識したいけど

研究授業だと堅苦しい

## 名称：授業参観

「他の教員の授業を気軽に見てみよう！」

<お互いのいいところを伝えあい共有する、教育方法を知る> 令和4年度からカリキュラム評価委員会発足

授業参観の目的：自己の授業作りの参考・学生を知る⇒令和4年度の4月からスタート！

本校の教員は20人(参観可能な授業は本校の教員の授業のみ。外部講師の授業は除く)

# 150件

令和4年度の授業参観延べ数：(月平均15件)

(4～8月の前期：85件、9月は夏休み、10月～3月の後期：65件、3月はテストのため参観可能授業なし)

複数回参観した教員が85%！

月	参観可能授業数	参観件数
4月	75	20
5月	71	10
6月	107	31
7月	87	17
8月	33	7
9月	夏休み	0
10月	100	18
11月	109	8
12月	88	13
1月	46	14
2月	26	12
3月	テスト週間のため授業なし	0
合計		150



↑授業参観後の話し合いの様子

★良かった点や参考になった点をフィードバックしています★

※タブレットの使用や、学習支援アプリも取り入れるなど ICT 教育に積極的に取り組んでいることも当校の特徴です♪

## テーマ 「リフチャレ会～教員個々の成長が組織の教育力の質の向上へ～」

リフチャレの語源：3つのR refresh（元気になる） reflection（振り返る） reform（改善する）

カテゴリー：⑤その他（人材育成）

学校概要：学校名：福井県立看護専門学校 所在地：福井県福井市四ツ井2丁目8-1 課程名：3年課程

1学年定員数：40名 修業年限：3年

### 【内容】

**リフチャレ会の発足まで**：当校の教員の経験年数が7年以上の割合が全体の半数以上、看護師経験年数も平均13年以上であり、教育実践力は高く経験値も豊富である。特に新人教員は臨床と教育の場にギャップを抱え苦慮しながら学生指導にあたっている。教員の業務は個人で担当する内容も多く、多重課題となり教員が負担に感じている。このような中で、新人教員の困りごとに気づかない場合も多く、成長の機会を逃し続け、自己効力感が低迷している状況が伺えた。そこで中堅教員が中心となり、職位や経験に関係なく、教育に関する困りごとや講義実習、学年運営等について振り返り語りあえることがまず必要ではないかと教務会で職員に働きかけ、同意が得られた。令和4年度に2回開催したが、令和5年度は継続していくために1回/月の開催とし、テーマも自分たちで抽出したのから、順に話し合いグループの編成もくじ引きで毎回異なるメンバーで会を実施している。

### リフチャレ会の実施

**目的**：リフチャレ会の機会を設けることで教育実践能力の向上を図る

**意義**：共に成長し合える職場風土

4月テーマ：学生指導のあり方（主体性・自主性・サポートの難しさ）

5月テーマ：面白い授業、つまらない授業、学生の反応をどう捉えるか

**実施後の参加教員の意見・感想**

1年目：他の教員の経験が聞けて参考となり、不安も和らいだ。

3年目：先輩教員が何を大切にしているのか教育観、指導観を聞けるのがとても勉強になる。

4年目：先輩の教員と自分の考え方や指導力を比較し落ち込むことが多いが、リフチャレ会で助言をもらえたり経験談を聞き、今の悩みもこれからつながることを感じた。経験を重ねていくことへの不安が少し軽くなったように思う。

5年目：同僚との現状の共有や相談ができるようになったことで、私の不安に思っていることが私だけではないことがわかったり、解決に近づくこともある。初めてから2年、このリフチャレの時間の活かし方もわかり始めた今日この頃。

6年目：自分の体験が若い先生の役立ち、成長できるきっかけになるとうれしいなと思う。

8年目：新人の頃にこんな会があるとよかった。自分の考えていることを再認識する機会になり、考えを整理できる。

9年目：普段聞くことができない個々の教育観を共有できた。学生の教育につながると思う。

10年目：学生の対応や自分が感じたことを共有できる機会になっています。対応の仕方も参考になる。

12年目：若いっていいな。最初は面倒だなと思っていたけれど、はじめてみて若い教員の考えや姿勢を見れるのが楽しい。

19年目：語ること、聞くことが楽しい。悩みや不安を共有できることで、みんなで乗り越えていける気がした

**企画運営する担当者が考える今後の方向性**

まずは継続、習慣化する。専任教員が積極的にテーマを出し合い、やりがいを見いだせる会にしていきたい。会を通して共通認識、相互理解につなげ、元気ある職場を目指していきたい。



テーマ:ワーク・ライフバランスが実践できる職場～多様な働き方は多様な生き方を助ける♪～  
カテゴリー:⑤その他(働き方改革)

学校概要:学校名-京都保健衛生専門学校  
所在地-京都市上京区千本通竹屋町東入主税町 910 番地  
課程名-三年課程 1 学年定員数-40 名 修業年限-3 年



教員それぞれ豊かな生活をおくることに貪欲で多趣味です♪

看護教員は講義・実習指導・クラス運営・各委員活動など業務は多岐にわたります。個々の学生に相談にのる時もあり、気づけば定時の時間はあっという間に終わります。やればやるほど、頑張れば頑張るほど、容易に日々の生活の時間に仕事を持ち帰り、ワーク・ライフバランスが保てなくなります。本校はコロナ感染をきっかけに試行錯誤しながら少しずつ働き方改革をすすめました♪



ハーレーでツーリング☺

① **自宅研修制度導入**・・・個々の教員の予定は日々バラバラですが、講義や実習、クラス運営などで必ず学校にいない必要がなければ、自宅研修制度を利用し自宅で勤務ができます♪例えば、学内で集中しづらい次回の講義内容の検討や資料作成など自宅研修で効率よく集中して取り組みます。また、子育て中のママさん教員は、子どもの体調不良時に自宅研修を利用し、自宅でできる仕事に取り組むこともあります。教員会議があった場合も、ZOOM を利用し参加可能です。外部研修時も ZOOM 受講であれば自宅で受講できます。(② **テレワーク制度も導入**)

③ **フレックスタイム制度導入**・・・本校の勤務時間は 9 時～17 時です。しかし、実習室当番や学校案内など 17 時を過ぎる勤務時間があります。その場合、自ら始業時間と終業時間を決めることができます♪例えば、必ず 19 時まで勤務する必要がある日の場合、11 時～19 時勤務が可能になります。また、実習初日は 8 時などと早い勤務開始時間の場合もありますが 16 時で勤務終了になります。看護教員の多様な労働時間に柔軟性を持っています。

④ **社内資料削減**・・・できるだけ資料の書式や様式を統一し、資料作成にかかる時間も削減に取り組み中です♪また、作成した資料の管理もクラウドに保存しています。紙書類であれば、探すのに時間がかかることもありますが、書類を探す時間が削減できるので、業務の効率化を促進することにつながっています。また、デスクの整理整頓にもつながりました。(もともと学内で 1 人 1 台ノートパソコン所有していましたが、業務で使用頻度が高いことと、持ち運びが容易なために、全教員にタブレット支給されました♪)



子育てや介護をしながらでも仕事を続けられる働き方を実現できる!



サンガの旗をふり、サッカー観戦!!



猫とくつろいで癒されてます♪



おせち料理はプロ級です♪

仕事以外の時間を十分に使えるようになるので、自己啓発やスキルアップに費やす時間も確保可能に!



花を育てています☺

生活全体が充実すれば、仕事にも良い影響を与えてくれ、意欲を持って仕事に取り組めるという点もワーク・ライフバランスの実現によるメリットです♪  
何より、充実した看護教員という仕事が長く続けられるように個人のなりたいを後押しする学校です♪

# 伝統の杏の収穫 杏酒づくり

本校は准看護師の資格をもった方が入学する2年課程の全日制の学校です。私の学校自慢は、2年課程でありながらも、学生が主体で行われる学校行事が多く、中でも毎年行われる“杏の収穫・杏酒づくり”は他校にはない伝統行事のひとつです。学校前に2本、学校裏に1本の杏の木は長年、学生の成長を見守ってきました。卒業の時には卒業生に手渡され、卒業をお祝いします。コロナ禍では分散登校をして行いました。これにより学生は「うつむきかけた気持ちが楽になった」「楽しかった」と喜んでいました。

毎年、梅雨の前に1年生が杏の収穫に奮闘。杏を洗って杏酒をつくります。この間にもいろんな話で盛り上がっています。入学希望者の中には杏の収穫を楽しみにしている方もいます。

杏を瓶に詰めた後は、クラスで好きな言葉やイラストを描いています。やっぱり「全員で国家試験合格！」が一番多いようですね。

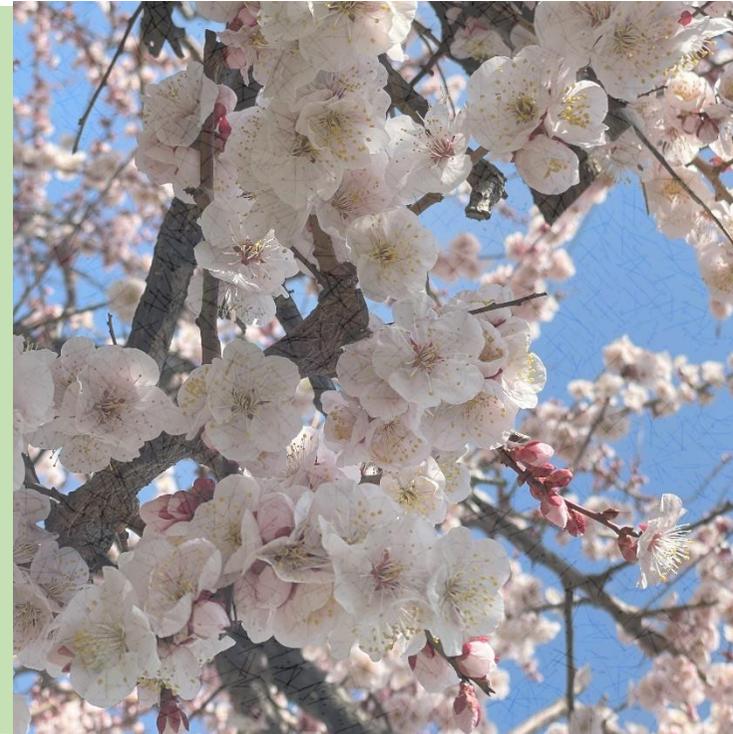
テーマ

## 笑顔いっぱい クラスの絆

思いやりの北斗会の一員として  
愛校心高まる一日となる

カテゴリー：①  
教育課程を支える  
行事活動

杏の収穫



北斗会看護専門学校

2年課程全日制 | 学年40名

(大阪府豊中市城山町1-10-3)



1) テーマ「3学年合同教育キャンプの実践」

2) カテゴリー：②教育内容

3) 学校概要

学校名：泉佐野泉南医師会看護専門学校 所在地：大阪府泉佐野市湊 1-1-30

課程名：3年課程 1学年定員数：40名 就業年限：3年

4) 内容

本校では、平成14年の開校時から新入生教育キャンプを行っていたが、平成21年からは4月に3学年合同の教科外縦割りプログラム（2泊3日）を実施している。コロナ禍は中止や日帰り登山に縮小したものの、令和5年には宿泊キャンプを再開することができた。

以下、合同キャンプの特色について報告する。

#### 特色①リーダーシップ・フォロワーシップを学ぶ

教育キャンプは3年生が運営の責任を担う。約2か月前の2年次2月から、PD（program director：プログラムの企画運営責任者）とMD（Management director：生活面の責任者）の2人のリーダーを選出し、組織作りを始める。3年生はどのようなキャンプにしたいかクラスで話し合い、スローガンを決定し、キャンプ担当教員と相談しながら綿密な企画書を作成する。このプロセスはとても重要で、プログラムの目的を明確にし、どのような成果につなげるのか、他学年が楽しんで参加できる内容か、安全面の配慮ができていないか、様々な側面から学びを得て、達成感は自信にもつながる。



3.6mの壁をクラス全員で協力して登りきる

#### 特色②縦割り合同プログラムで互いに成長する

教科外縦割り活動の利点は、異学年の学生が各々の得意を發揮しながら協働できることにある。3年生から発信された情報に基づいて、1、2年生も自分たちの目標、役割を明確化する。3年生は運営側でありながら、1、2年生の協力やポジティブな反応に力づけられる体験をし、1年生は先輩と交流することで看護学生としての第1歩を踏み出す。このような協働の体験は、キャンプ終了後の学生生活や卒後の交流にもつながっている。



#### 特色③教職員が全員参加して学生を支援する

キャンプ担当教員は、外部講師と連携しながらプログラムを構築していく。教員会議ではプロセスが共有され、教職員がどのプログラムにどのように参加するか、自らの役割を考えて決定する。また現地では、学生リーダー会議に自由参加し、学生たちの課題解決に向けた取り組みを、教職員が応援してくれている。学生の頑張りや成長の発見は、教職員のモチベーションにつながっている。





学生は荷物が多い…何とかならないか?電子教科書を導入する?けど、iPadの購入は学生には負担??

【内容】新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、オンライン授業が盛んになった。そこで、学生のよりよい学びに向け、学内で情報通信技術(以下ICT)の整備に努めた。

**2020年**  
Wi-Fi環境なし。  
オンライン授業はスマートフォンのテザリング機能で行う。  
通信トラブルが多く、その対応に苦慮。10月に1階教務室・2階の各学年の教室にWi-Fiを整備。しかし、学生への開放はなし。  
オンライン授業の導入

**2021年**  
学生にWi-Fiを開放。  
教室以外に、視聴覚教室や体育館のWi-Fi整備を行い、学校ではほぼ利用が可能となる。  
対面授業・オンライン授業を組み合わせ実施。  
実習も学内や自宅という状況が発生。

**2022年**  
学生への情報リテラシー教育を強化し、データの活用についての承諾書を導入。  
講師へも電子教科書の使用や授業資料のデータ化について説明し、ペーパーレスを目指す。

**2023年**  
COVID19が5類へ移行  
全学年に電子教科書が導入となり、ほぼペーパーレスの状況となった。  
実習記録は紙媒体で運用中。

SDGSも意識し、ICT推進中

### 授業

COVID19の流行拡大に伴い、オンライン授業を導入、電子教科書の導入を検討を本格的に開始。

この年の新入生より、電子教科書を導入。  
授業資料は紙で配布。電子教科書と紙媒体を併用。  
各講師に対し授業資料のデータ化について説明するが、承諾を得られない場合もあった。  
学生は紙の授業資料は各自でiPadに取り込み使用している状況であった。

授業資料はほぼデータ化して配布。実習に関するものは紙媒体で運用中。  
演習では、各自がiPadを用いて自己の実技を撮影し振り返りを実施。また、学生個人で実施場面を撮影し、看護技術の評価を動画で行う等、積極的に動画撮影を活用。  
模擬カルテを導入。自宅でも事例展開が可能に。

発表資料など、iPadで画面共有しながら作成をすすめ、時間を有効活用。  
学生はノートアプリを用いてノート作成や資料整理を工夫。



### TEAMSの活用

オンライン授業の実施に伴い、学習管理システムを検討。安全性を考慮し、「Microsoft Teams」を導入。  
Microsoft Teamsは授業や授業アンケート、連絡事項の伝達に使用。

授業内での小テストの実施・課題のやりとり・グループワーク・教員とのチャットでのやりとりなど、様々な場面で活用。  
自宅で実習となった場合は、DVD等の視覚教材の共有を行い、事例展開を行った。  
授業や実習は、Microsoft Teamsを用いてハイブリッドで対応。  
教員も状況に応じて、在宅ワークを取り入れた。

学生への伝達事項はほぼTEAMS上で行う。  
登校しなくても、教員と面談や指導などでチャットを活用。時間を有効活用。  
アンケートはMicrosoft Formsで実施し、集計まで実施。

iPadで時間割・自己のスケジュールが一目瞭然!



授業資料にテキストを取り込み貼り付け、わかりやすいよう工夫ができる!

### その他

オンライン授業の対応は教員が実施。  
通信トラブルや画面の共有が上手くいかず、授業時間をロスしてしまうことも。

全教員へiPadを配布。  
オンライン授業の設定や、授業中の通信トラブルへの対応を学生で担えるように、クラスにICT委員を設置。  
学生間でノートアプリを用いてノート作成。先輩・後輩間で教え合い、交流に繋がる。

「YouTube」を開始。それに伴い、クラスに広報委員を設置し、動画撮影は学生に依頼。

「Instagram」を開始し、広報活動を強化。  
教務会議・病院との会議はiPadを活用し、ペーパーレスを目指す。



授業資料は【推し】で整理し、やる気アップ!!

【テーマ】：「ピア・サポート制度を活用した基礎看護技術向上の取り組み」

～スポーツ大会にベッドメイキング タイムトライアルを組み込んで熱戦！技術練習量アップ！！～

カテゴリー：③教育方法  
(楽しく主体的に、学生どうして基礎看護技術を学びあう取り組み)

学校概要

学校名：独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校  
所在地 大阪市福島区福島4-2-78  
課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年

👉 **当校のピア・サポート制度の目的**：学校目標である「学生の自律にむけた教育体制：学生が主体的に行動する習慣を身につけ、看護師になる目的意識（意欲）の明確化の支援」に向け、学年を超えて先輩・後輩がともに成長しあうこと、学生同士の手で悩みや問題の解決ができる力を育むことを目的としています。

ピア・サポートグループ：1～3年生それぞれの学年を12グループ（各学年3～4名）にわけ、小グループで活動しています。

👉 **スポーツ大会が実施されることとなった経緯**：2年生から「各学年の交流の機会として、スポーツ大会をしたい！」という自主的な声が、開催の発端となりました。1年生が基礎看護技術でベッドメイキングを習い始めたところであり、「1、2年生が練習しあって競い合えるのでは？」と、ピア・サポートグループ対抗でのベッドメイキングのタイムトライアルをスポーツ大会のなかで行うことになりました。スポーツ大会の企画・運営は、2年生の協同学習委員が中心となって行いました。（残念ながら、3年生は実習のため参加できませんでした😞）

スポーツ大会の企画：  
「何をする？」「どうやってする？どこでする？」「1年生と2年生が交流できるためにはどうすればいい？」

学生へのインフォメーション：  
1年生、2年生の協同学習委員が、各学年の学生に、ルールや注意点を説明し、周知を図りました。

大会前、各グループでの練習が熱を帯びる！2年生、そして教員からも熱血指導！（練習量は、前年度の1.5倍！）



そしていよいよ、スポーツ大会当日！各グループが「めざせ 優勝！！」で力がはいりました。



真剣なまなざし！



チームの技術をみんなでは援！



きれいな三角！

実践力がこんなにアップしました◎  
✓三角の美しさがすごい！→その後のリネンチェンジの演習でも、その三角の美しさはキープされています。  
✓ベッドメイキングの時間が10分から8分に短縮！

【企画・運営の中心となってくれた、2年生協同学習委員の声】  
学年を超えて学習する機会を作れ、みんなから楽しかった！との声をたくさんもらうことができ嬉しかったです。また、大会後も他学年で話している姿が増え、実際に交流が深まったことが実感できて、開催してよかったと思いました。

【実施後の学生の声】  
(1年生)先輩がとても優しく、距離が縮まった気がします。わからないことやできないところをひとつひとつ教えてくださった。  
(2年生)学びながら楽しめることはとてもよいと思った。1年生が練習をととても頑張っていて、すごいな、私ももっとがんばろうと思いました

中心になって企画・運営してくれた2年生の協同学習委員さん達



# 地域と共に育つカリキュラム

カテゴリー：④連携（地域・多職種等）

学校概要：学校法人RWFグループ

四国中央医療福祉総合学院 看護学科

所在地：愛媛県四国中央市中之庄町1684-3

課程名：3年課程 1学年定員数：40名 就業年限：3年



## 内容

地域の人と共に学び、成長するために1年次前期に「地域で生活をする人の理解」の科目の中で、まず、学校が設置されている四国中央市を理解することが必要と感じ、四国中央市役所の方に四国中央市の概要の講義をお願いしている。その後、四国中央市で生活する人とその人たちの健康問題についてフィールドワークを行いグループごとに発表した。

四国中央市には4つの地区があり、その中で**伊予三島**、**川之江**、**土居**の3つの地区に絞り、健康問題についてインタビューをし、核家族・高齢者の生活に関連する施設の役割について調査を行った。施設等にアポイントを取り、インタビューする中で、電話対応の方法やコミュニケーション方法など接遇についても学んでいる。地域の方も協力できるならとインタビューに答えてくださり、四国中央市の魅力と課題、健康問題について考える機会を提供してくださっている。フィールドワークのまとめ発表会には四国中央市の政策部政策推進課の方からご講評をいただいている。



「地域の生活を支える実習Ⅰ」は、四国中央市の山間部にある4つめの**新宮**地区に行き、茶摘み体験をすることで地域の生活を理解し、地域の方にインタビューすることで生活の不便さや健康問題を考える機会になっている。学生たちが摘んだ茶葉は新宮名物の霧の森大福や新宮茶となる予定である。また、新宮診療所の見学や説明から過疎地域の医療体制の実際や課題・健康問題・地域に対する地域愛を感じる機会になり、地域の人に育てられ、共に健康問題を考えていく時間になっている。その他にこの実習では高齢者とはスポーツで、障害者施設ではレクリエーションを行うことで交流し、多様な対象理解と対応方法についても学んでいる。

実習は、怖い、つらいというイメージを払拭し、自らの学びの多い学習内容ができ、学生からも実習いくのが楽しいと感じる実習が行われている。

(所感・学科長 今田良子)

地域・在宅看護論の科目が創設され、地域の人と触れ合う機会が増え、フィールドワークや実習の中で地域の人々の“地域愛”を感じる場面が多くみられた。地域で生活する人を理解することは地域を知り、地域を肌で感じ、体験することから始まると考える。このような機会は、学生生活でしかなかなか得られるものではない。本学院は、その体験を通じて学生の成長も感じられるカリキュラムで学べるため、机上の学習だけではなく、人間力の向上にもつながっていると自負している。